



MARIANISTES

—— マリアニスト ——

マリアとわたし

マリア会 朝山 宗路

マリアさまは私にとって、どなたであるのか。マリアニストにとって、この問いに答えることは大切な意味をもっている。ところで、聖書を読むと、そこにはこの問いに真っ直ぐに答えてくれるテキストがある。それは十字架上のイエスの言葉だ。

キリストは十字架の上から、聖母マリアに声をかけられた。「ご覧なさい。あなたの子です」。また、その横にいた愛する弟子に対して「見なさい。あなたの母です」。

この十字架のイエスの言葉は、ヨハネ福音書だけが伝えている。共観福音書では、婦人たちは「遠くから見守っていた」と記されているにすぎない。

では、この食い違いをどう説明すればよいのだろうか。聖書というものは、記録書でもなく歴史書でもない。だからといってでたために書かれた創作でもない。福音書がこのような二つの違った記述をしているのは、何かわけがあるからに違いない。ご存知のように、福音書を書いた人は、信仰共同体の中に伝えられてきた伝承を源泉の一つとしている。共観福音書は、詩篇38章12節と同88章9節の言葉を忠実に描こうとした。詩篇38:12では「愛する者も友も避けて立ち、わたしに近い者も、遠く離れて立ちます」と述べられており、詩篇88:9では「私から親しい者を遠ざけられました」と書かれている。まさに共観福音書が述べている通りだ。しかし、もし歴史的に弟子たちが十字架から遠ざかっていたとするならば、どうして十字架のそばで起こったことを記録することができたのであろうか。イエスの最後の叫びも、知ることはできなかつたはずである。

これに反して、ヨハネは善き牧者としてのイエスの姿を強調している。「わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せる」(ヨ12:32)。この主の予言は、ヨハネのテキストで実現したと理解される。

キリストは、「弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた」(ヨ13:1)とヨハネ福音書は述べているが、キリストが息を引き取る前に「ご覧なさい、あなたの子です」と述べて自分の母親を弟子たちに与えられたのである。人々はこの言葉をいろいろに解釈してきた。ある人は、年老いた母親を配慮して、愛する弟子にその老後を託したと考える。イエスの孝行愛を表す言葉である。確かにそのように理解することもできるだろう。しかし、聖書において「ご覧なさい」という表現は、大切な真理を啓示するときに使われるものである。もしそうだとすれば、これはイエスの口から出た最後の啓示であり、愛する弟子で象徴されている「信じる者の共同体」に、自分の母親を与えるという大切な真理の啓示である。

事実、これがイエスの個人的な孝行愛ではなく、救世主としてのイエスの使命の一つであったことは、このマリアに対する言葉が終わったとき、はじめて主は、「成し遂げられた」と述べられたことで理解できる。イエスは、このマリアへの言葉をもって、御父から託された救霊の事業を完成されたのである。

聖母マリアが「キリストの母」「教会の母」と呼ばれるのは、まさしくキリストの最後の啓示で示されたからである。

海外だより

中村長八神父様の 列福調査が進行中です マリア会 青木 勲 (在ブラジル)



この度、アルバレスマン
ヤードは、尊敬すべき長崎
の大司教、高見光明様と同
伴者の野下師、及び日伯司
牧協会の構成メンバーと他
の随行員の訪問を受けまし
た。

訪問の主な目的は、ドミンゴス中村長八
神父様（1865～1940）の死後の栄
誉に敬意を表し、列福の経過がこの目的の
ために構成された特別委員会によってヴァ
チカンに向けられる為でした。

到着時に、日本の司教様と随行員は、教
区の司教ジョセ・マリア、リポリオ・カミ
ノサラチョ、ジュランゲル・セヴェリノデ
リマ神父に暖かく迎えられました。ジュ
ランゲル師は小教区の管理者で、列福調査と
全体の共同体の委員の一人です。その他に
多数の司祭、多数の女子修道会、及びリヨ
デジャネイロ、サンパウロの奥地、南マッ
トグロッツとパラナーの信徒が参加しま
した。

共同体との最初の出会いで、高見司教様
は1549年に聖フランシスコ・ザヴィエ
ルが多くの子供たちと日本と中国に到
着した短い歴史について話されました。聖
人の死後、弟子たちはキリスト教の宣教を
通してその教えを継続し、信仰心とキリス
ト教信仰を優先させました。然し弟子たち
は信仰を公言した為、拷問や犠牲を受け、
幾世紀にわたって多くの信者が殉教しま
した。

小教区の大広間での講演後、ジョゼ・マ
リア司教様が出席者全員に教区の名にお

いて挨拶され、続いて市営墓地まで行列し、
先頭には長崎の大司教に続く共同体の全
員、数人の司祭と修道女たちが続きました。
そして、中村神父様（1940年に其処に
埋葬された）の記念碑に全員が敬意を表わ
しました。

共同司式の荘厳ミサが聖ヨゼフ大聖堂
で行われ、ドミンゴス中村神父様の68回
目のご死去の祝賀を暗示するような閉会
でした。

【この記事は、ブラジルの新聞に掲載された
文章を、Sr. 八木橋裕子さんが日本語に翻訳
してくださったものです。】

富来神父様 (在ソウル) からの便り

関東の桜はもう過ぎたでしょうか。ソウ
ルにも桜の名所があるそうですが、まだ少
し早いようです。その代わり、今盛りなの
が、白木蓮の花です。私の部屋の前に大き
な木蓮の木があって、木一杯に白い花をつ
けています。

その修道院も5月中に移転することにな
っています。マリア会の跡地に区の役所
ができるようです。移転先の建物がどのく
らいの大きさか私は分かりません。既存の
建物で、多分一時的な場所になるのではな
いかと思います。

ソウルでの生活も慣れてきました。これ
で言葉が自由にできればもっと楽しいで
しょうがなかなか進歩しません。それでも
毎日元気にやっています。



連載 マリアへの奉献（7）

富来 正博

《聖母マリアの奉献》（つづき）

ところで、聖母マリアが捧げられた奉獻は深い信仰の行為であったことを忘れてはなりません。天使のことばを受けられたあと、マリアはただちにエリザベトを訪問されます。エリザベトも神の恵みを受けて男の子を宿していました。そのエリザベトが聖霊に満たされてマリアについて重大な証言をします。「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いですでしょう」。それはあたかもマリアの別名が「信じる者」であるかのような語り掛けです。お告げのとき天使はマリアに「恵まれた方」と呼びかけました。この「恵まれた方」はマリアの別名となりますが、いままた新しい呼び名が加わりました。この二つの呼び名は神とマリアの関係を表す対の「呼び名」と考えることができます。神は天地創造の前にマリアを選び、祝福で満たし、おん子をお与えになります。「恵まれた方」は神の側からの働きを示す名です。それに対して信じるとは、神の働きかけを完全な服従の心を持って受け入れることです。存在のはじめから恵みに満たされた方であるマリアは、意志の働きが行われるようになった瞬間から信じる方でした。その頂点がお告げのときです。「お言葉のとおりこの身に成りますように」とお答えになったのは、信仰によってです。このお告げの瞬間から最後のときまで、マリアのご生涯は信仰の旅路となります。「偉大な人になる」と約束されたそのおん子は、信仰の目でしか理解できない存在でした。マリアは信仰によっておん子との一致を十字架にいたるまで忠実に保たれました。お告げのときの天使のことばがすべて裏切られたことの証人として十字架の元に立たれたマリアは、おん子と共に深く悲しみ、おん子のいけにえに母の心をもってご自分を結び合わせ、ご自分からお生まれになったいけにえの奉獻に心をこめて

同意されたのでした。（教会憲章58参照）（なお教皇ヨハネ・パウロ二世回勅「救い主の母」をお読みになることをお勧めいたします。）



小教区における

信徒マリアニストとしての活動

シオングループ 坂本幸代

所属している教会の中で、信徒マリアニストとしてどのように教会の活動に参加していますか、ということについて書くようにとのことで、考えていくうちにいろいろと気付かされました。私達の教会には、勉強会、奉仕活動など28のグループがあります。私が参加しているのは、外部奉仕部の中のアジア教育支援の会で、現在インド、バングラディッシュの貧しい子ども達の教育支援をして18年になり、2005年には5の方が司祭叙階の恵みをいただかれ、私もその中の一人の司祭を支援させていただき、叙階式にも参列できたことを大変感謝しています。

信徒マリアニストとしてマリアに奉獻した者としての心構えを忘れないで教会の活動に協力するとき、大きな実りと喜びがあります。聖堂の後ろの机の上に「マリアニスト」広報を15～20部並べておきますと、最近はほとんどなくなり、マリアニストの精神が目には見えなくても静かに広まっていることを喜んでいます。

教会の中で信徒マリアニストとしてどのように生き、働いたらよいか、小さな事しかできませんが、祈りながら考え、努力したいと思います。

新緑の美しい、さわやかな5月、聖母月を迎え、私達マリアニストの上に、マリア様のお取り次ぎによって、主の御恵みが豊かにありますように祈りながら・・・。

《 サラゴサの精神 》

—マリアニストの霊性に基づく 30 日の霊操—

イグナチオの霊的体験に基づいてつくられたイエズス会の 30 日の霊操についてはご存知の方も多と思います。

それに対し「サラゴサの精神」は、マリアニストの創立者、シャミナード師のサラゴサに於ける霊的体験をもとにして作られた 30 日の霊操です。

昨年春に完成し、ローマでの研修を経て世界各地で実施されるようになりました。直接の対象は終生誓願を控えた男女修道者。マリアニストの精神全体が堅忍の誓願へと方向付けられています。

日本でも、来る 7 月の一ヶ月間、二人の若いシスターが霊的にサラゴサに赴き、シャミナード師の霊的歩みを追体験する予定です。どうぞお祈りください。

(Sr. 小林幾久子)

◆◆ 編集後記 ◆◆

美しいみどりの間に、藤の花や花みぶきが沢山花をつけ始めました。まさに「時は春！」という有名な詩を思い出すような日々です。

過日、暁星小学校と MLC で行われたチャリティーコンサートでは、心の中まで洗われるような清らかな時を過ごさせて頂きました。5 月 9 日はシャミナード修道院で青木神父様を囲んで懇談会が開かれます。神父様はブラジルで司牧を続けていらっしゃる方で、今回ブラジル移民 100 年祭を記念して、日本巡礼団引率のため来日されます。5 月 11 日は聖霊降臨の主日でもあります。

マリア様を想う聖母月の 5 月は、イエス様の私たちへの愛を深く感謝して過ごす月であり、更に 6 月は、「この愛を信じて感謝して毎日を送りましょう」と書物にありましたのでお知らせ致します。

(Y. S)

お知らせ

2008 年度日本 MLC 総会

2008 年度日本信徒マリアニスト共同体 (MLC) 総会が下記のとおり行われます。奉献会員のみなさまのご出席をお願いいたします。

日時：2008 年 5 月 31 日 (土)

10:30~15:30

場所：シャミナード修道院 2 階大会議室

内容：10:45 総会

13:00 講話

「御子ゆえの聖母マリアの栄光」

講師：会員の川口 洋氏

(学習院大学名誉教授)

14:45 ミサと奉献式

【欠席の方は、委任状をご提出ください】

主のもとに憩う

—祈りのひととき—

日時：毎月第 3 水曜日 pm7:30~8:30

(8 月はありません)

会場：マリア会

シャミナード修道院 聖堂

〒102-0071 千代田区富士見 1-2-43

担当：清水一男神父

問合せ先：Sr. 小林 (Tel 08051883081)

【参加希望の方は、特に申込みの必要はありません。当日会場にお出でください】

発行 『MARIANISTES』編集部
「汚れなきマリア修道会」町田修道院
清水一男神父

〒194-0032 町田市本町田 3050-1

TEL 042-722-6301

FAX 042-725-6317

ホームページ <http://www.marianist.jp/>